ご寄附のお願い

本学の活動にご理解をいただき、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

寄附の目的

寄附金は次の目的に活用させていただきます。

1. 教育及び研究の支援
2. 学生の支援
3. 国際交流の支援
4. 地域貢献の支援
5. その他大学活動の支援

寄附金額

おいくらからでも結構です。　※金額の目安【個人】5千円【法人・団体】5万円

お申込み・お支払い方法

1. インターネットによるお申込み
   二次元コードの読み込み、または（https://www.spu.ac.jp/donation/）にアクセス
   （クレジットカード決済、コンビニ支払い、ネットバンキング（Pay-easy）決済が可能です。）
2. インターネット以外のお申込み方法
   事務局 財務担当までお問合わせください。
   TEL 048-973-4110
   E-mail zaimu@spu.ac.jp

インターネット申込み

※寄附金としていただくことができるお金は、
本学の教育研究上支障がないと認められたもの（利害関係が生じないもの）です。

寄附者の顕彰等

1. イベント案内・収支報告をさせていただきます。
2. ご芳名をホームページに掲載させていただきます。
3. ご芳名を銘板に刻み学内に掲示させていただきます。
   ※ご寄附の合計額が個人10万円以上、法人・団体50万円以上の方
4. 感謝状を贈呈させていただきます。
   ※1年間のご寄附の合計額が個人100万円以上、法人・団体300万円以上の方

税制上の優遇措置があります

この寄附は、住民の福祉の増進に寄与するものとして、税制上の優遇措置があります。

（個人からのご寄附）

1 所得税
寄附金額（総所得金額の40％が上限）から2,000円を差し引いた額が当該年の課税所得から控除されます。

2 住民税
本学が、寄附をした翌年の1月1日にお住まいの県内市町村において寄附金税額控除の対象団体に指定されている場合、寄附金額（総所得金額の30％が上限）から2,000円を差し引いた額の10％が、寄附した翌年の個人住民税から控除されます。

（法人・団体からのご寄附）

全額損金算入が可能です。

活用実績

寄附金は寄附の目的に沿って、より充実した大学活動の実施のため、多岐にわたる分野で活用させていただいております。

2022年度
100円食堂の実施

2019年度
校内案内板等の設置

2020年～2022年度
学生希望図書の購入

埼玉県立大学広報紙
つなぐ～県大の輪～
Vol.3（2023年9月発行）

企画編集・発行
お問合わせ先
2023年度埼玉県立大学広報紙編集チーム
埼玉県立大学 事務局 企画・情報担当
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
TEL 048-973-4715　FAX 048-973-4807
URL https://www.spu.ac.jp/

アンケートご協力のお願い
広報紙をお読みになったご意見・ご感想や本学へのメッセージをお寄せください。
今後の広報紙制作の参考にさせていただきます。

埼玉県立大学広報紙
つなぐ～県大の輪～
2023 Vol.3

特集
2025年4月
大学院・学部の改革を行います

Contents

02 大学院の改革
04 卒業生・修了生の活躍
08 懐かしの先生からのメッセージ
09 県大生の今
10 埼玉県立大学と地域社会／理事長コラム
11 学部の改革／同窓会からのお知らせ

人とつながる、人を育てる。
埼玉県立大学
SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

2025年4月

大学院の改革を行います

学長だより

キャリア・アップを目指して

本学は、開学25周年を迎えようとしています。この四半世紀を振り返ると、埼玉県立大学の歴史を語れるほどの年月が流れたのだと感無量となります。この年月は、卒業生が経験と実績を積み上げ、それぞれがそれぞれの立場を確立したことを意味するものと思います。今、本学は在学生のみならず、卒業生が将来のキャリア形成に結びつくように、社会ニーズに合った、そして開かれたアカデミアとして、大学院・学部一体改革を進めています。

大学院は、定員増とともに、今まで看護とリハビリテーション、臨床検査領域が中心でしたが、健康福祉政策や健康情報の領域を強化し学部学科と大学院専修との学びの継続性を明確にします。学部は、健康行動科学専攻を健康情報学専攻に改称し保健医療福祉系情報学のスペシャリストを育成します。また、学部大学院一貫教育コースを設置し、学部在学中から大学院の授業を受講できる教育体制を整備します。

卒業生の皆さんには、自身のキャリア形成と多様性の開発に是非本学の大学院を利用していただきたい。いつでも母校に戻り、自身と大学の可能性について先生方と語り合っていただきたい。本学は、次の25年に向けて卒業生との絆を更に強靭なものにし発展していきます。ご支援をよろしくお願いします。

学長　星（ほし）　文彦（ふみひこ）

2007年に埼玉県立大学に着任。理学療法学科長や地域産学連携センター所長を歴任し、2021年から現職。

Point 1

定員増

博士前期課程	20名	▶38名
博士後期課程	6名	▶ 8名
入試回数	1回	▶ 2回

※1回目の入試で定員が充足された場合は2回目の実施なし。

Point 2

保健医療福祉政策プログラムの創設

医療・介護等データの調査・分析、地域包括ケアシステム構築に向けた計画策定など、保健医療福祉施策の企画立案に必要な実践的な知識、手法等を身に付けるためのプログラムを創設します。

対象　自治体や企業等の職員

科目（例）社会調査法、統計分析法、データヘルス、地域マネジメント、地域課題研究 など

※学校教育法に基づく履修証明プログラムとする予定です。

Point 3

一貫教育コースの創設

①学部・大学院博士前期課程一貫教育コース

対象　理学療法、作業療法、検査技術分野の2023年度学部入学生から

②大学院博士前期・後期課程一貫（研究継続）コース

対象　博士前期課程の全ての専修の修了生

Point 4

養護教諭専修免許状の取得

養護教諭免許状保有者は、博士前期課程で必要な科目を履修し、修士の学位を取得すれば、専修免許状を取得することが可能になります。

対象　1種免許状保有者⇒大学院に入学
2種免許状保有者⇒大学院に入学すると同時に、学部で1種免許状取得のための科目を履修

詳しくは本学HPをご覧ください

このほか、学部の改革も行います！詳細は11ページへ

研究コラム

ぜひ一緒に探究しませんか？

多様性のある看護業務支援ツール

保健医療福祉学部　看護学科
保健医療福祉学研究科　看護学専修
教授　善生　まり子

医師の働き方改革を目的として、多職種を巻き込んだタスク・シフト／シェアが推進されています。その中で、看護師が判断可能な範囲を拡大して専門性を発揮するために、看護チーム（図1）の役割や業務分担の見直しは急務であり、連携と協働の促進が求められています。そこで、病院の看護管理者、看護業務のICT化を支援する事業者らと研究チームを組んで、高齢患者の安全かつ安心な療養生活を支える看護チームがよりよく機能できるよう、看護業務支援ツールの開発に取り組んでいます。

第1弾として、看護師、准看護師、看護補助者の高齢者の尊厳に係る自己評価を明らかにするため、「医療や看護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン」（日本看護倫理学会、2015）のうち、「1. 高齢者の尊厳を守ることにつながる日々の看護」等を用いて、アンケート調査を行いました。その結果、図2の5項目で統計学的な差がみられ、看護師は看護補助者よりも自己評価が高いことがわかりました。看護補助者の業務へのモチベーションが低下し易いポイントとも言えるのではないでしょうか。

看護補助者は、看護チームの一員として看護師の指示のもと、患者へ直接ケアを行います。ケア自体が患者の苦痛につながっていないか、患者やご家族とのコミュニケーションのとり方等を看護補助者が自己評価できるようなサポートも必要です。

本研究チームでは、看護業務の効率化・安全管理に貢献すると共に、看護チームの相談し易い関係・環境づくり等、多様性のある実用的な看護業務を支援するツールの開発を目指していきたいと思います。

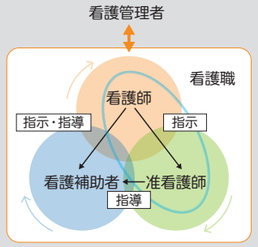

図1
一般病院の看護チームの例

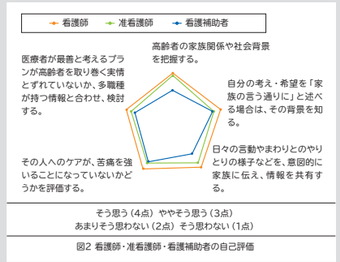

図2 看護師・准看護師・看護補助者の自己評価

【参考】「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド」公益社団法人日本看護協会、2021

健康経営～健康課題の見える化と健康文化の醸成～

保健医療福祉学部　健康開発学科健康行動科学専攻
保健医療福祉学研究科　健康福祉科学専修
准教授　津野　陽子

働く世代の健康維持・増進および生産性の向上は、企業や組織にとって大きな経営課題であるとともに、働く世代は、生活習慣病を発症するリスクの高い集団であり、職域における健康維持・増進への働きかけが求められています。従業員の医療・健康の問題を経営課題と捉え、経営戦略に位置付ける健康経営の考え方が国内外で推進されています。健康と生産性をマネジメントする健康経営手法により健康課題を可視化し、健康リスクと生産性との関連を示す研究を行ってきています。

健康と生産性をマネジメントするためには、現状把握として健康課題の可視化をする必要があります。企業・組織や保険者等に蓄積されたデータを、現状分析により健康課題を明確化します。日本においては、従業員へ実施している一般定期健康診断・特定健康診査、ストレスチェック等を活用すれば、毎年データがほぼ100％取得可能です。企業・組織の特性によって健康課題は異なり、介入すべき内容は異なります。健康リスク構造の見える化は、健康関連コストの縮小に関心のある経営層と従業員間で共通認識を持つためのコミュニケーションツールとなると考えます。健康リスク構造の見える化は、現状把握だけではなく、それをベンチマークとして介入効果の測定・評価に活用することで、従業員への効果的・効率的な健康支援につなげることができます。健康経営は、データ活用によるエビデンスに基づき、中・長期にわたり取り組んでいくべき経営戦略です。

さらに近年、職場の「健康文化」が健康経営の促進要因として注目されています。健康経営の推進のためには、健康と生産性をマネジメントする介入プログラム内容の良し悪しではなく、介入効果を上げるためにも組織の健康文化の醸成が重要であるという認識が高まっています。健康文化の要素は、「安全・健康への組織の方針」、「支援的な職場環境」、「コミュニケーション」の3つであるとされ、健康文化が健康リスクの改善を促し、生産性の維持・向上に寄与するとされています。健康文化の醸成は、持続可能な健康経営の取り組みにおいて重要であると考え、健康文化の指標や機能についても研究しています。

いまどこで なにしてる？
卒業生の活躍

01

2010年度卒業
保健医療福祉学部
作業療法学科

小野寺 翔大さん
ONODERA Shota

Profile

大学卒業後、現勤務先のIMSグループ埼玉みさと総合リハビリテーション病院へ入職。グループ内での他病院施設への異動（回復期病院新規立ち上げ、急性期病院への研修）を経て、2021年度より現職場で再度勤務している。

勤務先
埼玉みさと
総合リハビリテーション病院

現在の仕事内容
- 回復期専門病院における作業療法（主に脳血管疾患・脊髄疾患の入院患者、脳血管疾患患者の運転外来を担当）
- 病棟責任者業務　など

大学を卒業して12年が経ちました。その間に、グループ内の急性期病院への異動や回復期病院の立ち上げなど、グループ病院ならではの経験をさせていただき、現在はリハビリ専門病院に戻り働いています。

リハビリ専門病院での働きがいは、患者様・ご家族の「人生で一番ピンチの数カ月」に関われることだと思います。特に脊髄疾患分野では、身体も心も病状を受け止められない時期を経て、長い年月をかけて社会復帰していく患者様に多く関わります。毎日泣いていた患者様が退院後に福祉車両へ改造した自家用車を運転して遊びに来てくれた時に、「生活全てがリハビリだから」「明日（車椅子ラグビー等の）試合だから」「もう小野寺はいらないな」などと話してくれることもあります。患者様・ご家族の「心が変わる瞬間」を発見でき、人や作業療法は面白いとつくづく感じています。

学生時代の私は、授業も休みがちで課題の提出期限も守らない問題学生であり、卒業するのに5年かかりました。今振り返ると、社会人としても医療人としても非常に未熟でありました。そんな自分を見捨てずに研究室やスタッフルームで熱心に個別指導していただいた先生方や、一緒に学び遊んだ仲間たちに支えられたお陰で現在の自分があると感謝しています。今、楽しくやりがいを持って働くことができているのは、大学時代の時間があったからです。

大学の先生方は、卒業から10年以上経った今でも自分の顔や名前を憶えていてくださり、実習挨拶や埼玉県作業療法士会での研修、大学の情報センターに遊びに行った際などに声をかけていただけます。県大の先生方の温かさ溢れる指導やアットホームな雰囲気が、卒業生が県内・県外各地で活躍できている要因だと感じます。

現在、私は直接的な患者様介入業務以外にも、病院内での病棟責任者業務やグループ単位での研修業務にも携わっています。病院・施設を越えてグループ内での新人研修などを担当することも増え、「自分もこうだったのかなぁ、自分がやるなんておこがましいなぁ」と当時の自分を振り返りながら資料作成・講義を行っています。当時の自分を知っている方は、「小野寺が言えることか！？」と是非自分に喝を入れて下さい！

院内・グループ内には多くのリハビリスタッフが在籍しています。「作業療法士は心を変える仕事」をモットーに、患者様・ご家族と同じようにスタッフにも作業療法を提供し、一人でも多くの人が心豊かに生活できるよう取り組んでいきたいです。

PHOTO Gallery

問題学生時代を支えてくれた同級生たち。せんげん台駅前の居酒屋をよく利用しました。

OT室の電動麻雀卓。患者様との麻雀大会中です（今年度新しい卓へ買い替え予定）。学生時代に覚えた麻雀が活きています。

自宅の猫の一匹です。ベガルタ仙台のユニフォームを着ています。最近は、各地のスタジアムでJリーグ観戦に行っています。

いまどこで なにしてる？
卒業生の活躍

02

2013年度卒業
保健医療福祉学部
健康開発学科検査技術科学専攻

南雲 涼太さん
NAGUMO Ryota

Profile

大学卒業後、埼玉県済生会川口総合病院へ入職。生理機能検査室9年目。院内業務に従事する傍ら埼玉県臨床検査技師会 生理検査研究班 班長を務め、県内技師のレベルアップと地域に貢献している。大学時代は麻雀・映画鑑賞サークル「ベンゼン」、アカペラサークル「Joy」に所属。

勤務先
埼玉県済生会川口総合病院

現在の仕事内容
- 心臓をメインとした超音波検査
- 心電図・呼吸機能検査などの生理機能検査業務
- 夜間・休日の当直業務　など

地域の中核病院である埼玉県済生会川口総合病院で主に心臓をメインとした超音波検査を行っています。

日本の人口は2008年にピークを迎えてから一転して減少が始まりました。にもかかわらず急性心筋梗塞や弁膜症などによる心不全の患者さんは増加の一途をたどっており「心不全パンデミック」の状況はしばらく続くとされています。心電図や心臓超音波検査は心疾患を検出する重要な検査でありそれを担う臨床検査技師の活躍の場は多く存在します。検査結果を判断するのは医師ですが、患者さんに直接触れた技師の感触はとても重要視されます。

私が心臓超音波検査をはじめて1年程度の時、検査依頼をした医師から「南雲さんからみて前回の検査時と比較してどう思う？」と聞かれたことがありました。不安ながらも考えを伝えた際には「やっぱりそうだよね！ありがとう！」と感謝され、自分が医療を担う一員になっていると感じたことを今でも覚えています。そのほかにも検査中の不整脈を報告したことでペースメーカを入れたり、弁膜症を報告して弁置換を行ったりと直接治療につながる、患者さんのための検査ができるのもこの仕事の魅力だと思います。しかしながら地域のクリニックをはじめとする検査技師のいない医療機関では「心不全パンデミック」の中で専門性の違いや人手不足、多忙などの理由で超音波検査装置などの機器を十分に活用できていない現状が多くあります。臨床検査技師会生理検査研究班としても、そういった検査技師の需要に答えられるよう、技師の育成や技師間のつながりの場の提供を行い、技師・医療機関・患者さんの誰もがより良い環境づくりの実現にむけて努めていきたいと考えています。また検査技師会以外でも近隣の施設の技師と一緒に研究会等を設立し、切磋琢磨していけたらと思います。

私は元々研究職志望でしたが、大学や臨地実習で人とのかかわり、チーム医療を学ぶ中で、その考えが変わりました。多くの患者さんやほかの医療スタッフの中でコミュニケーションを取りながら働きたいと考え、総合病院への就職を決めました。その選択は自分に合っていたと感じています。これからもまだまだ勉強しなければならないことが山ほどある（生理機能検査分野はとれる資格や挑戦できる試験がとても多い！）ので励んでいきたいと思います。今後はもともと興味のあった臨床に貢献できるような学術活動にも並行して取り組んでいけたらと考えています。

PHOTO Gallery

子育てに毎日奮闘中。動物園に行っても動物に興味を示さず・・・。

仕事で使用している超音波装置です。超音波検査は患者負担が少ないながら、多くの情報が得られるとても有用な検査です。

大学ではアカペラサークルJoyに所属。現在は社会人のミュージカルサークルに入って歌を続けています。

いまどこで なにしてる？
修了生の活躍

03

2022年度修了
保健医療福祉学研究科
博士前期課程 リハビリテーション学専修

吉川 和希さん
KIKKAWA Kazuki

Profile

大学卒業後、運動器理学療法の研究のため大学院へ進学。理学療法士の仕事と研究を両立しながら、国際マッケンジー協会認定セラピストとなる。大学院修了後は山口県のとよた整形外科クリニックに勤務。国際学会や留学を見据えて英語の勉強中。

勤務先
とよた整形外科クリニック

現在の仕事内容
- 外来クリニックにおける理学療法（主に整形外科疾患を担当）　など

私は埼玉県立大学を卒業後、埼玉県立大学大学院へ進学しました。元々腰痛についての研究に興味があり、研究者への進路を視野に入れての進学でした。大学院では、理学療法士としてパート勤務をしながら研究に取り組みました。コロナ禍であったこともあり、これらの両立はとても大変でしたが、指導教員やゼミ生の協力を得ながら修了することができました。卒業論文と比べて修士論文は指導教員からの指摘、修正が大きく減り、自らの成長を感じました。また大学院では、研究だけでなく様々な治療体系を学ぶことにも注力しました。その中で臨床への興味が強くなり、もっと現場で結果を出すことができるようになりたいと思うようになりました。大学院時代に得ることができた情報や具体的なデータは、患者様に提供するようにしています。そうすることで発言に説得力が増し、現在の臨床にも活きています。世界中の様々な知見を知り、多くの学外の方とのネットワークを作り、そして自らが進むべき道を見つけることができた貴重な時間でした。

現在は、山口県のとよた整形外科クリニックに勤務しています。主に整形外科疾患を対象に理学療法士として活動しています。ここでは、大学院時代に学んだマッケンジー法という治療体系が用いられています。マッケンジー法は患者様自身が主体的にセルフケアに取り組んでもらうものです。私が一方的に治療をするのではなく、どうすればよくなるのかを患者様と一緒に考えます。「運動をしたらよくなりました。これからも続けます」のような声には大きな喜びがあります。必要な治療内容や適切な声掛けは患者様ごとに異なり、まだまだうまくいかないことも多いですが、スタッフとディスカッションや一人反省会をしながら今後の糧にしています。またエコーや衝撃波など今まで用いてこなかった機器を使用することもあり、毎日多くのことを勉強しています。私も大学院で学んだことを共有し、クリニック全体でレベルアップできるよう研鑽しています。

埼玉から離れ、同級生と直接会う機会が減ってしまいましたが、稀にオンラインで会う機会が楽しみになっています。指導教員やゼミ生とは今後国際学会で会う予定です。そして将来は臨床に関しての留学をしたいと考えているので、英語の勉強に励んでいます。これからも、様々な人がその人らしく、よりよい生活を送ることができるようにサポートできる理学療法士でありたいと思っています。

PHOTO Gallery

4年間一緒に勉強した同級生。早く集まる機会があることを楽しみにしています。

指導教員である高崎先生には研究から臨床のことまでたくさんのことを教わりました。だらしない私にも根気強く指導していただきました。

お昼休みには技術練習をしながらスタッフ同士で知識の共有をしています。和気あいあいとした雰囲気が魅力の職場です。

いまどこで なにしてる？
修了生の活躍

04

2020年度修了
保健医療福祉学研究科
博士後期課程

櫻沢（中里）亜希子さん
SAKURAZAWA(NAKAZATO) Akiko

Profile

大学卒業後、美里町役場、三芳町役場で保健師として主に母子保健や児童福祉、介護保険業務を担当。周囲の協力もあり、在職中に大学院で学びながら仕事と学業、家事・育児を両立する。14年間行政保健師として勤務し、その後大学教員の道へ進むも、再び臨床に戻る決意をし、現在の吉見町役場へ入庁。3児の母。

勤務先
吉見町（埼玉県）保健センター

現在の仕事内容
- 乳幼児健診や各種検診、おやこ教室等の教室運営
- 個別ケース支援
- 他機関との連絡調整
- 臨床実習指導者　など

私は現在、保健師として保健センターに勤務しています。保健センターでは妊娠期から高齢者まで様々な方を対象とし、乳幼児健診や各種がん検診、教室運営を行うほか、個別に支援が必要な方に対して多職種と連携しながら継続的な支援を行っています。今まで3つの自治体に勤務していますが、その地域それぞれの環境や資源があり、その地域で暮らす方々のニーズを把握し、地域の特性に合わせた支援を行うことの重要性を痛感しています。

大学時代は実習の苦い記憶がありますが、それ以上に友人たちや先生方からいただいた様々な学びや刺激は、その後の私自身の仕事への姿勢や人間性の形成に通じていると感じます。

就職後は職場の先輩方にも恵まれ、保健師としてとてもやりがいのある毎日でしたが、臨床でしか感じることの出来ない様々なフィールドクエスチョンに出会いました。そして社会人4年目に母校の県立大学の修士課程が創設されることを知り、思い切って大学院へ飛び込みました。当時は仕事と学業と子育てと3足の草鞋を履き、非常に多忙な日々でしたが、大学院では様々なバックグラウンドを持つ仲間たちや専門性の高い指導をしてくださる先生方と多くのことを学び合い、とても充実した毎日でした。その後、社会人12年目には博士後期課程に進学し、自身が臨床で感じている課題を研究という手法を用いて解明していくことの重要性や楽しさを学びました。修士・博士課程を仕事や家庭を持ちながら修了することができたことは職場や家族、周囲の方々の支えがあってのことであり、本当に感謝しています。

現在、再び臨床の保健師として勤務していますが、改めてこの仕事の楽しさを実感しています。また、その中で特に感じていることは今まで大学院教育の中で培ってきた研究を臨床で活かすことの重要性です。研究は臨床で活かしてこそ、その成果が最大限に発揮されると思います。大学院の課程の中で身に付けた研究の視点を私自身の強みとして、臨床の中にある多くのフィールドクエスチョンを解明し、より有意義で効果的な支援を住民の方に提供できるよう、臨床での研究を継続していきたいと考えています。

私は学部の4期生ですので、大学を卒業してからずいぶんと長い時間が経過しました…。その後も修士・博士と県立大学で学び、それぞれの立場でIPWを学んだことが、今の私自身の仕事のスタイルにとても大きな影響を与えていると思います。

今後も地域の声に耳を傾け、学術的な視点を忘れず、多職種と連携しながら地域住民に寄り添い、伴走することの出来る保健師としてさらに専門性を高めていきたいと思います。

PHOTO Gallery

両親学級の様子。実際の家庭を想定した実技を演習することで生活場面における子育てを具体的にイメージ出来るように工夫しています。

大学時代からの親友は今でも連絡を取り合ったり、遊んだり。会える機会が少なくなってしまいましたが、私を励ましてくれる大切な存在です。

キャンプが大好き。社会人＋大学院生の生活で時間を有効に使うスキルを手に入れました…。オフは思い切り楽しみたい！

～懷かしの先生から～

卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

卒業生・修了生の皆さま、くれぐれも健康に気を付けて、ますますの活躍を期待しています。ぜひその姿を見せに、大学に遊びに来てください。

本学での教員生活の思い出

東　本学に着任して約18年。最初は看護学科の授業が中心で、養護教諭の教員免許に関わる科目を担当しました。だんだん授業が増えて教養科目の教育学も担当するようになったので、全学科専攻の皆さんと関わるようになりました。学科専攻によって個性があるなぁと感じていましたね。それから教員採用試験対策の課外授業、面接練習などの要望が増えて、大変でしたが楽しかったです。

教職ホームカミングデイや教員採用試験の合格者シンポジウムなど、卒業生の皆さんの熱意でつくられたイベントは今も続いています。

林　在宅看護実習はユニークでした。専門職の訪問時の同行だけでなく、教員と学生だけで定期的に療養者のご自宅に訪問させていただきました。散歩に出ることが多かったのですが、一番遠い所では、都内の美術館に、車いすを利用している療養者さんと娘さんと皆で電車に乗って出かけたこともあります。安全にやりとげるために入念な下準備をしたことを思い出します。

学生の皆さんは、様々なアイデアを出してくれて、当時は介護用品が少ない中で、車いす用の雨合羽や散歩用の尿バッグ用カバーを手作りしてくれました。療養者やご家族に大変喜ばれました。かなり自由度の高い実習で、おもしろかったです。

吉田　大学に着任した20数年前は若かったので、結構怒鳴ったり学生さんを叱ったり、学生さんには怖い先生、厳しい先生というイメージだったかもしれません。今考えると非常に反省しています、申し訳ございませんでした。

ただ、20数年たって私ももう60を過ぎました。最近はどちらかというと怒らなくなってしまったので、仏の吉田と思われているかもしれません。怒ると血圧が上がってしまうので、あまり怒らないようにしています。

林　私は2023年3月まで学生支援センター長を務めておりましたが、コロナ禍で今までの学生さんたちの伝統が一気に消えそうになり、立て直しに力をそそぎました。2023年3月には学生自治会主催で卒業生を送る会が開催できたことは本当に良かったと思っています。今、大学がにぎやかになってきたことをとても嬉しく思っています。

東　研究室はお気に入りの場所です。初期の頃は卒業研究で6～7人でワイワイやっていました。結構大変でしたが、卒論の提出直前に合宿所状態になった年もあって、思い出深い場所ですね。北棟で目の前が田んぼなので、カエルの鳴き声が聞こえる6月頃が好きな季節です。

吉田　私はラーメンが大好きで、学食でも食べていました。学生の中にもラーメン好きがいっぱいいて、実習の合間にラーメンの話をした頃が懐かしいです。せんげん台の商店街の中にもいくつかラーメン屋があって、盛り上がったのもいい思い出です。

卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

林　人生山あり谷ありですが、うまくいかないときは、焦らずに、違う見方ができないかと考えることや、相談できる人をもつことが重要です。そして、バランス感覚を大事にしてほしいと思います。いつでも人生はリスタートできます、有意義な毎日を送ってください。

東　コロナ禍で、卒業生の皆さんの職場での活動や日常生活、いろいろと苦労されたり、変化したことが多いのではないかと思います。大学も色々変化しました。遠隔授業を行ったことで、今でも遠隔で授業を配信したりしています。皆さんも、コロナ禍で得た経験を糧にして、ぜひ新しいことにも取り組んでほしいです。ホームカミングデイなど機会があったらぜひ立ち寄ってください。

吉田　社会人になって壁にぶち当たったら、ぜひ大学を思い出して遊びに来てください。学生時代を懐かしみながら色々なお話をして、また活力を蓄えて今後臨床の場、教職の場、色々な場で活躍してください。皆さんが大学に遊びに来てくれることを待っていますので、お立ち寄りの際はぜひとも研究室を訪ねてください。お待ちしています。

今回お話を伺った先生方

メッセージは動画でも見られます

東 宏行 教授
共通教育科/高等教育開発センター長
2006年着任。専門は臨床教育学・教育関係学

林 裕栄 教授
看護学科/副学長・学部長
1999年着任。専門は老年看護学・在宅ケア学・地域看護学

吉田 隆 教授
健康開発学科口腔保健科学専攻/専攻長
2000年着任。専門は歯科保存学・歯科医学教育学

県大生の今
KENDAISEI NO IMA

対面授業が基本となり、実習やサークル活動などもコロナ禍前の様子に近づいてきました。学生たちの笑顔も増えて、大学にも少しずつ賑わいが戻ってきました。同級生や県大の先輩・後輩、先生方との「輪」をつなぎながら、近隣の方々とも触れ合う機会も増えてきて、人と人との交流が再開されはじめました。

学生生活編

清透祭（2022/10/29,30）
県大を会場として開催しました。
多くの近隣の方にもお越しいただき、清透祭に賑わいの声が戻ってきました。

卒業生を送る会
（2023/3/15）
学生自治会が企画。体育館で開催しました。卒業生、在学生、先生も参加し、卒業生の門出を祝いました。

入学式
（2023/4/4）
4年ぶりに新入生、ご家族が講堂に集まって開催しました。緊張している新入生を見守るご家族の様子が印象的でした。

スポーツフェスティバル
（2023/6/17,24）
学生自治会が企画。バスケットボールやバレーボール、フットサルを行い、交流を深めていました。

授業編

対面でのグループワークも本格的に再開されて、学生たちの活気あふれる声が学内に戻ってきました。

埼玉県立大学と地域社会

SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY × COMMUNITY

卒業生向け支援講座

「3Dプリンタを活用した自助具作製」開催レポート

2023年度 卒業生支援講座

- 埼玉県精神看護・精神地域ケア事例検討会
- 養護実践事例検討会
- 県立大学卒業生保健師勉強会
- 高齢者（認知症など）ケアを語り合う会
- 産科スタッフのための「やさしい日本語」講座
- 現場で使える3Dプリンタの活用法

2022年度からオープンカレッジ講座（公開講座）の一つとして、「卒業生向け支援講座」を拡充しています。その中から「3Dプリンタを活用した自助具作製」の開催結果を紹介します。

本講座（作業療法学科 小池祐士助教、押野修司准教授）では、日々臨床で関わる患者さんや地域の方々の日常生活での課題解決のために、3Dプリンタで出来ること、使用方法などを学び、実際に自助具作製を体験しました。

参加された卒業生の皆さんからは、「こんなに簡単に作れるとは思ってもみなかった。早速活用していきたい」という感想が聞かれました。懐かしい先生方からの講義と久しぶりの大学訪問は、卒業生の皆さんにとって楽しく充実した時間となったようです。

この他、今年度開催（終了したものを含む）の卒業生支援講座は、上記のとおりです。

ご自身のスキルアップ、キャリアアップに必要なテーマがありましたら、ぜひご参加ください。また、卒業生向け/専門職向けの講座の情報が届くメーリングリスト「講座案内メール」の運用も開始しました。オープンカレッジでは卒業生向け・専門職向け以外にも、一般向け/小中学生、高校生等を対象とした講座も開催しています。ご家族と一緒に、母校に遊びに来てください。

講座案内メール

▲
講座情報がダイレクトに届くメーリングリストの登録はコチラ

地域産学連携センターの活動紹介

WEB講座のご案内

健康や社会の様々な課題に対して、本学教員がコラムを執筆し、本学ホームページに年3回掲載をしています。最近では「子育て支援の制度」や「ストレス社会を生きる知恵」といったテーマで掲載しています。1コラム3～4ページほどの、非常に読みやすい内容になっていますので、ご一読ください。

▲
コラムはコチラから

地域活動プラットフォーム

2023年度より学生の更なる地域活動を推進するため、「地域活動プラットフォーム」という、学生と地域活動/ボランティア活動などをマッチングする学内向けWEBサイトの運営を始めました。皆様の職場等で本学学生が活躍できそうな機会があれば、情報をご提供ください。

埼玉県立大学 地域産学連携センター　edec@spu.ac.jp

学生の地域活動

2022年度も本学学生は様々な社会活動/地域活動に参加しました。開放特許を活用した学生アイデア発表会in埼玉には3チームが出場し「優秀賞」「審査委員特別賞」（写真）などを、第7回かすかべビジネスプランコンテストでは「春日部商工会議所賞」をそれぞれ受賞しました。

理事長コラム

地域包括ケアシステムの進展と県大卒業生への期待

理事長　田中（たなか）　滋（しげる）

公立大学法人埼玉県立大学理事長/慶應義塾大学名誉教授
現在務める主な公職は、医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員長など

地域包括ケア構築当初の目標年は、団塊の世代が前年末までに75歳を超えている2025年でした。15年間にわたる普及の努力により、埼玉県庁を始め、各自治体には地域包括ケア局長や課長などの担当者が置かれるようになっています。では私たちはこれで安心してよいでしょうか。違います。

それは85歳以上人口が1,000万人を上回る2035年に備えるのみならず、社会全体で少子化脱却を図る必要性に直面しているからです。だから、地域包括ケアシステム第2ステージが検討されるようになりました。

地域包括ケアシステム進展の鍵が、コア部分を担当する医療・介護・保健専門職の協働体制にあることに変わりはありません。これらの分野で働く本学卒業生の多くは仕事のどこかで貢献を果たしているはずです。ただし、超高齢者や子育て世帯も暮らしやすい、生活支援を含む地域づくりを推進する際は、一般企業や自治体等に属する県大の仲間の力も求められます。

もう一つ、生活困窮や、国籍あるいは性自認の違いなどにより孤立しかねない住民の包摂を目指す共生社会に向けた活動も欠かせません。住民がダイバーシティの意味を理解するにあたり、推進者として福祉専門職の卒業生にも期待しています。

2025年4月――

学部の改革を行います

2025年4月始動！「健康情報学専攻」

※「健康行動科学専攻」は2025年4月入学者より「健康情報学専攻」に名称変更し、本専攻における養護教諭一種免許状は取得できなくなります（文部科学省届出予定）。

現代の急速に発展する情報社会は、保健医療分野においても例外ではありません。2025年4月から「健康行動科学専攻」は「情報」に重点をおき、「健康情報学専攻」と名称変更します。そして、さらなる時代にあった目標に向かいます。保健医療のニーズは高度化・専門化するだけでなく、多様化・複雑化しています。現在、カリキュラムも準備中です。

従来の医学が生命科学を中心とした自然科学を基礎としていたのに対し、社会科学も含めた多方面からのアプローチを含む総合科学が「健康科学・保健学」であり、「行動科学」は、人間の行動を科学的に研究し、その法則性を解明しようとする学問です。心理学、社会学、生物学、人類学、政治学、経済学など様々な領域にまたがります。新専攻では、従来の学びの上に「情報」という軸をおくことで、成果を充実させていきます。

健康情報学専攻は「保健医療福祉」を切り口に、人々が健康に生きる未来の社会を目指していきます。「文系」「理系」という学問的区分にとらわれず、「文理融合」として横断的な知識と発想で学びます。

生命科学
健康の自然科学的側面を扱う領域

関連科目
生理学，解剖学，内科学，心の健康，栄養学・食生活論など

社会科学
健康の社会的側面を扱う領域

関連科目
衛生学・公衆衛生学，社会保障概論，健康社会論，認知行動科学，社会心理学など

情報科学
科学的根拠に基づく情報の獲得と伝達に関する領域

関連科目
情報リテラシー，保健福祉統計，保健統計演習，保健医療情報など

総合科目　専門ゼミⅠ・Ⅱ，地域調査計画，地域調査演習，健康プログラム実習など

COLUMN

データ活用と個人情報保護

私の学生時代は、主に紙媒体から情報を収集しました。約40年の間に、急速に電子化が進み、扱う情報量は莫大に増加しました。2021年にはデジタル庁が設置され、国をあげて加速しています。保健医療の分野も例外ではありません。限られた財源でも、集まった大量データを活用すれば、効率的で豊かな社会になると期待されています。

これに伴い個人情報保護法も大幅改正されました。健康診断等の結果や医療従事者の診療の過程で知りえた情報を「要配慮個人情報」と位置付け、取扱いには高い保護を求められます。真に社会へ貢献するためには、データ活用とともに個人情報保護とのバランス感覚が必要です。

健康開発学科健康行動科学専攻　専攻長　大木 いずみ

埼玉県立大学
同窓会からのお知らせ

同窓会のこと、知ってますか?!

同窓会SNSが誕生！！

県大在勤の卒業生が、SNSで県大の「今」を発信中！X（旧：Twitter）・Instagram・Facebookを今すぐフォロー！卒業後も県大と繋がろう♪

X（旧：Twitter）　Instagram　Facebook

実はこんなこともやってます！！

あらゆる学校イベントで機会を見つけては、コバトン・さいたまっちに来てもらって、イベントを盛り上げています！

大学祭「清透祭」の開催に合わせて、ホームカミングデーを企画！同級生の仲間や先生達と清透祭で再会しませんか？

同窓会に関するお問い合わせはこちらから　dosokai@spu.ac.jp